

令和2年度 第1回山形県スポーツ推進審議会 議事録

標記審議会については新型コロナウイルス感染防止のため、書面による意見聴取とした。各委員からの意見については、以下のとおり。

① 渡邊委員（会長）

- ・ 山形県スポーツ推進計画の実施期間が残り2カ年となり各施策達成に向けて、令和3年度の取組みについて、より具体的な内容で実施されることを期待する。
- ・ 今年度についてはコロナ禍の影響を受けた内容が多くみられたが、次年度も同様に影響が残る可能性が高く、取組内容にはコロナ対策への対応も含まれていると推察する。来年度の報告では、その点についても触れてほしい。

② 阿部委員

- ・ 新型コロナウイルス感染症は、当然子どもたちにも影響を及ぼしていた。体育指導の視点から今年度の活動としては、外部指導員が幼児教育の現場に入れなかったり、十分な活動を行えない様な状況だった。
- ・ 外部指導員が子どもたちを指導できない分、現場の保育者が指導を担うために、教員対象のオンライン研修の実施など、幼少連携した新しい取組みについて検討している。
- ・ 幼児期からの運動への取組みのために、今一度保育者の指導力向上（運動を自ら楽しむこと）と、学校や地域の協力を働き掛けていきたい。

③ 池田委員

- ・ 「女性のニーズに合ったスポーツ機会の提供」について「託児所の利用」とあるが、男女関係なく子育て世代を対象とした場合には託児所の利用を考えるべき。（女性＝育児のイメージは適切とは言えない）

④ 石沢委員

- ・ 今後の取組みについては、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、十分な予防策を講じたうえで活動することを希望する。

⑤ 市川委員

- ・ 地域における障がい者スポーツの普及と環境整備等に弾みがついたと思っていた矢先、コロナ禍により全ての活動が止まってしまった。各関係機関において事業計画等の見直しが求められるが、現在は新型コロナウイルス感染防止が最優先事項となっている。
- ・ 活動が停滞している今こそ、今後の活動に向けて連携の強化が必要である。

⑥ 岡崎委員

- ・ コロナ禍の影響で中止になった事業や研修会が多く、思うような活動ができなかったが、改めて日常における運動・スポーツの大切さ、必要性を感じた。来年度も感染防止対策を取りながらの活動とな

と思うが、やれることを工夫しながら掲げる目標に近づけるように取組みたい。

- ・ 運動部活動と地域の連携について、各市町村の総合型地域スポーツクラブがどのようにかかわっているのか、県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会においても模索していかなければならない。

⑦ 熊坂委員

- ・ 生涯スポーツの活動として健常者に対する施策が多く、障がい者スポーツの取組みがボッチャ競技の新設のみだったのは残念に思う。コロナ禍で実施できない事業もあったと推察するが、今後、障がい者スポーツの推進についても力を入れてほしい。
- ・ 障がい者と健常者の交流会に参加して、高齢のアスリートが多く、若いアスリートがいないと感じた。タレント発掘事業では素晴らしい成果が出ているので、障がいの有無にかかわらずトップアスリートを発掘してほしい。その為にも、指導者不足と障がい者に対する理解・知識の不足等の課題解決に取り組んでほしい。

⑧ 黒田委員

- ・ ドリームキッズプログラムを学校体育で活用することには大賛成だが、各小学校への浸透はまだ不十分と感じる。各地区校長会で説明できる体制を整えることや、DVDにして活用を促すなど周知方法を考えてほしい。

⑨ 柴崎委員

- ・ べにばな国体から約30年が経過し、第3巡目の山形での国体開催に向け、立候補の準備と選手強化の道筋を示す時ではないか。べにばな国体開催時の運営者・指導者・競技団体関係者などが年を重ねリタイヤする前に、そのノウハウを継承しつつ、県民のスポーツ振興の大きな励み・目標としたい。
- ・ 県内の体育施設は、市町村がべにばな国体などを契機に建設したものが多く、老朽化が進み、改修の時期に入る。現在ではやや手狭になっていることもあり、大きな大会の誘致は厳しいという話も聞かえてくる。たとえば、庄内地域に全国大会も開催できるような施設を整備してはどうか。
- ・ 中学校・高校の休日の部活動が地域へ移行するという動きの中で、地域で専門的にも指導ができる人材・指導を支える人材の確保が必要になってくる。優秀な指導者の確保に向けて、市町村、地元企業と連携のもと、雇用という観点から推進できないか（全国で活躍した人材が地元へ回帰できるような仕組み）。
- ・ 県内には「わが町のスポーツ」として地域を挙げて小学校・スポーツ少年団・中学校・高校、競技団体等と連携しながら振興を図っている市町村がある。少子化が進む中、このような取り組みを県としても一層支援してほしい。
- ・ 有望な素質を持った県内の選手が、中学校進学、高校進学を機に県外へ移り活躍している場面が時々みられる。県内に所属して活躍してくれたらと感じる。そういった若い選手からみて魅力のある環境（優秀な指導者、練習環境、練習施設など）の整備が重要。

⑩ 元木委員

- ・ 運動実施率は向上しているが目標には程遠く、また、子どもの実施率が低いこともふまえ、手軽にできるスポーツ（ウォーキングなど）を習慣化し“レクリエーションスポーツ”として意識づけること

が重要と考える。手軽さと健康をスポーツに結び付けることも意識して、「レクリエーション」の普及啓発を図っていただきたい。

- 学校体育においても、競技種目だけでなくボッチャやカローリングなどのレクリエーション種目を取り入れて、楽しく体を動かすことの喜びを子どもたちに醸成する必要があると考える。